

# 文化財ニュース いわき

第 52 号

平成 8 年 7 月 1 日

財団法人いわき市教育文化事業団

福島県いわき市中央台東いわき公園内

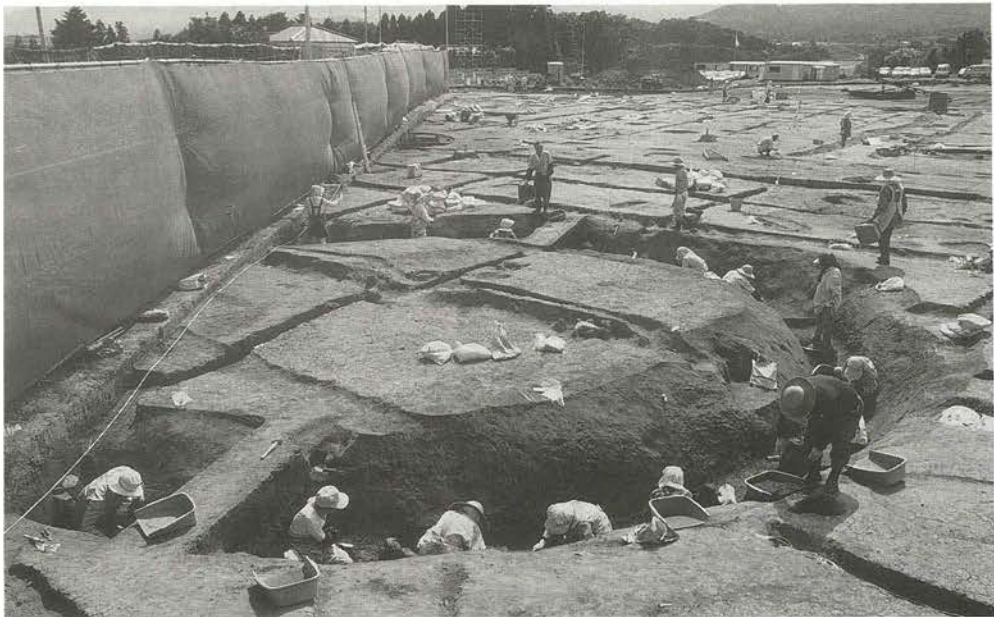
TEL 0246(29)0391

## 1,500年前の古墳と縄文時代の村を調査

### —大むかしの横山の台地を探る—

常磐自動車道の延伸工事にさきがけて、今年の4月から8月までの予定で横山地区（横山B遺跡）の発掘調査が行われています。

この遺跡からは、旧石器時代・縄文時代・弥生時代・古墳時代・奈良—平安時代・江戸時代におよぶたくさんの遺物や遺構が見つかっています。市内最大の横山古墳群の一部を調査し、古墳の大きさや石棺のようすを知ることができました。また縄文時代には陥し穴が規則的に並ぶことや集落の中で住居と貯蔵施設がそれぞれ群を構成していることなど、たくさんのことがわかりました。



古墳の周りにある溝を掘る（第2号墳）



蓋石で密封された石棺 (第1号墳)



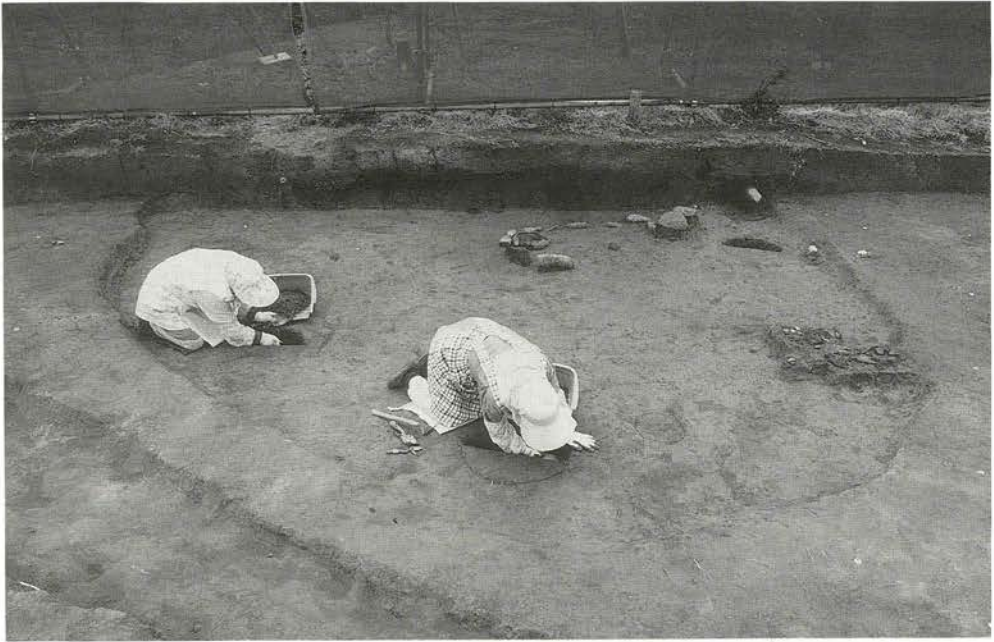
姿を現す古代人 (頭骨と歯)

### 豪族のお墓

上平窪地区の横山・酢釜の台地には、たくさんの古墳こふんが残っています。

調査では、古墳3基が発見されました。古墳の墳丘ふんきゅうは削られていますが、周りの溝まわみぞが残っていました。溝の直径は14m、幅2m、深さ1mもあります。

古墳のひとつからは、板状の石を箱形はこがたに組み合わせてつくった石棺が見つかりました。石棺には、被葬者ひそうしや一体が頭を東に埋葬され、副葬品まいそう ふくそうひんはありませんでした。



縄文時代の住居跡を掘る（第2号竪穴住居跡）

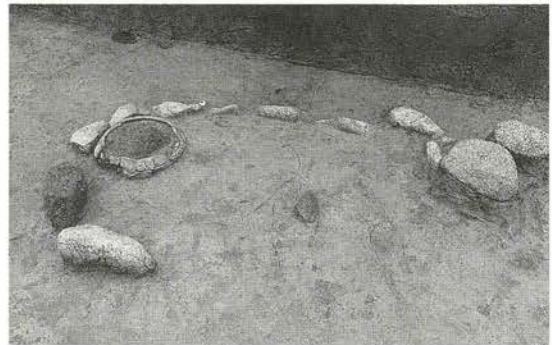
### 縄文時代のすまい

縄文時代のすまいは、地面を浅く掘り<sup>くぼ</sup>窪めて柱を立てた簡単な住居です（<sup>たてあな</sup>竪穴住居といえます）。

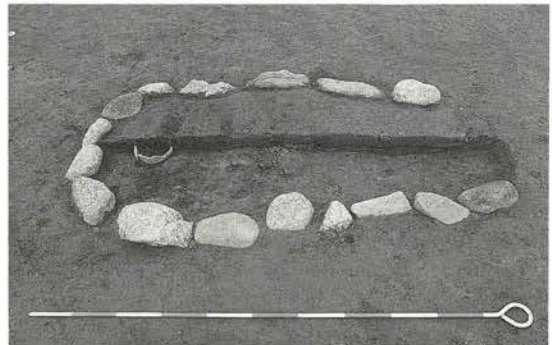
ほぼ中央には石で<sup>ろ</sup>囲った炉があり、その炉のまわりで生活をしていました。炉は調理・<sup>ちようり</sup>照明・<sup>しょうめい</sup>暖房・<sup>だんぼう</sup>暖房といった重要な役割を果たします。

この遺跡の住居跡は円形をしています。炉は楕円形につくられ、一方に<sup>ふかばち</sup>深鉢が埋められており、縄文時代中期の特徴を示しています。

この炉を<sup>ろ</sup>囲んで食事をしている縄文人の姿が想像されます。



縄文時代のいろり（第2号竪穴住居跡）



縄文時代のいろり（第1号竪穴住居跡）



食料を貯える穴 (第8号土坑)



獲物を獲る穴 (第1号土坑)



縄文女性の顔

### フラスコ状土坑<sup>じょうどこう</sup>

平面が円形で底が大きく、断面が実験器具に似ていることからフラスコ状土坑と言います。ここでは、土坑の中に縄文土器が入っていましたが、ドングリやトチの実などの食料が入っている例もあります。

### 陥<sup>おと</sup>し 穴<sup>あな</sup>

ここからは多くの陥し穴が見つかりました。平面が長方形や楕円形で、深さは1~2mあります。鹿や猪を獲るための穴で、底には獲物の動きを抑えるために杭や小枝を立ててありました。

### 土<sup>ど</sup> 偶<sup>くわ</sup>

土で作った女性の人形で、出産やお祓いに使われたものです。ここからは顔と胴の部分が別々の場所から見つかっています。文様の特徴や板状の粘土で作っていることから縄文時代中期の土偶です。

とじておきましょう。

## 横山B遺跡現地説明会のご案内

日 時：平成8年7月13日(土) 午後1時30分~午後3時 雨天決行

場 所：横山B遺跡…いわき市平上平窪字横山39番地

問合せ：いわき市教育文化事業団 ☎29-0391 調査事務所 ☎25-9180